

2022/7/2

新美南吉記念館工作室にて

日本福祉大学教育・心理学部 松下明生

「きんぎんすなご」の砂子体験ワークショップ

童謡「たなばたさま」の歌詞の中に、今ではほとんどの人が知らない言葉があります。それでも現代の小学校音楽の教科書にはこの歌が掲載されています。その中の『おほしさまきらきら きんぎんすなご』という歌詞の『すなご』という単語については、音楽の先生に聞いても、周りの大人に問うても、知っている人に出会うことはあまりありません。そこで、この忘れ行く大切な「日本の美術文化」の体験をしましょうと企画されたこのワークショップに興味をお持ちいただきありがとうございます。

これって何だろうと、わからないままに出席頂きたかったのですが、どうしても知りたいという方のために、この文章を作成しました。

「すなご」は「砂子」と書きます。金箔や銀箔を金網を貼った竹の筒に入れて、先を切り落とした筆で優しく振ると、網の穴から、箔がポロポロと落ちてきます。落ちた細かな金箔銀箔は膠（にかわ）という動物性たんぱくの接着料にて画面に定着させます。これが、まるで夜空に輝くお星さまのように見えることから、歌詞が生まれているのです。源氏物語絵巻やその他、日本文化の中でも装飾様式の極みでもあります。昔は調度品や例えばお重箱の装飾、襖の絵柄などに施されていましたね。生活の身近なところにあった日本の伝統的な装飾が、ほとんど遠い存在になってしまったことを残念に思えて仕方ありません。さあ、ワークショップの当日は、とても簡単にどなたでも出来るように準備をしていますので気軽にお越しください。そして楽しみながらお土産に、七夕に是非立てかけてお飾りくださいませ。



活動中（竹筒を振って砂子）



完成パネルを並べると美しいね！